

日本共産党市議団

小野寺幸恵・原 啓司・富岡 隆

富岡 隆
議員

●「Rのないまちづくり」へ

鈴木知事が「R誘致の見送りを表明したことから、「Rのないまちづくり」に舵を切るべき」と迫りました。市長は、「Rは未来に向けた手段であって、これからも臨空ゾーンでの発展とダブルポートを生かした都市戦略は重要だ」と思っている」と答えました。

また、6年間にわたって「R推進に8,000万円を超える多額な市民の税金を使っており、「ドブに捨てたようなものだ」という市民の声もある。「市長は反省すべきであり、どう責任を取るのか」と追求しました。

市長は、「Rにかかわる予算を使ってきたことに対する責任は感じている。得たものもあり、次のまちづくりに努力していきたい。決して無駄にはしない」と答えました。

原 啓司
議員

●子ども医療費助成の対象拡大

子育て支援として6年生までの通院医療費助成の拡大について提案しました。財源として、幼児教育の無償化により、今まで市が独自に助成していた不要となる費用の活用を求めました。

●生活保護受給者の健康管理支援

生活保護受給者の健診の受診率と健康管理について質問しました。国保の特定健診と比較して受診率、受診勧奨ともに格差があることを指摘し、せめて国保並みの健康管理支援をおこなうよう求めました。

●苦小牧駒澤大学について

京都育英館に経営移管後、カリキュラムの変更で学生に不安が広がっていることを指摘しました。定員割れが続いている状況から地元の高校生から選ばれる大学になるために、大学とのコミュニケーションを取るよう求めました。

小野寺 幸恵
議員

●日豪共同訓練

日本で初めてとなる日豪共同訓練が19年9月～10月にかけて千歳基地を拠点におこなわれたため、状況について質問しました。訪問部隊地位協定締結の交渉が進められていることから、「地位協定が締結すれば訓練が活発になる」と指摘し、市民の安全安心の立場で迅速な情報収集をするよう求めました。

●日米共同訓練

20年1月22日からの日米共同訓練ではオスプレイが使用され、給油・整備で千歳基地を活用すると報告がありました。

それを受け、「17年のオスプレイの訓練以上に苦小牧の上空を飛行する可能性が大きい」「他の戦闘機以上に事故率が高く、12年と比較し17倍になっている」と指摘し、市として特別な対応を取るよう求めました。

無 所 属

触沢 高秀 議員

全員協議会にて議員定数の件について、意見を述べさせて頂きました。現行の28名の定員数から定数を増やすべきと発言をさせていただきました。

増やす定数については言及しませんでした。これは幅広く市民の皆様のご意見や要望を市政に反映させることが出来るのではないかと。また、議員が増えることによつて議論の幅が広がるのではないかと考えております。それによつて苦小牧市がより良くなっていくと考えます。

世相、報酬などの状況も踏まえた議論になってくると思いますが、それを踏まえた上でも定数の削減は如何なものかとも考えます。

この定数の件に関しましては、これからさまざまな議論になると思いますが、令和2年末までにはしっかりとした結論を出すということですので、私も市民の皆様の見聞きながらこの議員定数に関して考えていきたいと思っております。